

2014年2月21日

神奈川県知事 黒岩祐治 様

DOCOMOMO Japan 代表
松隈 姓



神奈川県立近代美術館の保存・活用要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20 世紀の建築・環境遺産の価値を認め、その保存を訴えることを目的の一つとする、国際的な非政府組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement : モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織) の日本支部です。

この度、借地権期限の満了にともなう鶴岡八幡宮への土地の返還にともない、神奈川県立近代美術館の存続が危ぶまれていると聞き及んでおります。

神奈川県立近代美術館は 1951 年の開館以来、古都・鎌倉における戦後文化の拠点の一つとして、長く市民に親しまれてきました。白く軽快な本館と、鶴岡八幡宮の深い緑の織りなす諧調は、伝統性と近代性を橋渡ししようとした戦後日本の創造性を象徴するものとして、貴重な文化的景観と考えられます。

本館は戦前に一般的だった様式的な美術館とは一線を画した平明な形態を採っており、第二次世界大戦後の新たな息吹を伝えます。こうした全体計画の大胆さが、各所における細やかな配慮と常に融合しているところに、本館の優れた芸術性が見出せます。顕著な部分としては、平家池に面した 1 階のテラスまわりがあります。2 階の床面が迫り出し、それを支える鉄骨の柱は池の中から立っています。本館の構造材である鉄、広い開口部を構成するガラス、床面のコンクリートといった近代の工業素材と、1 階壁面に使用された大谷石、池の水、鶴岡八幡宮の緑といった天然の素材とが一望の下に構成され、建物の内部空間と外部空間との交流を見ることができます。ここには日本の多くの芸術に認められるような、素材に対する鋭敏な感覚、人工と自然との調和が読みとれます。このように本館は、近代性を通じた、伝統の新たな表現となっています。

設計者の坂倉準三は日本を代表する建築家として著名です。1931 年から 36 年にかけて、世界的建築家であるル・コルビュジェのパリのアトリエで学び、1937 年に竣工したパリ万国博覧会の日本館（現存せず）によって、モダニズム建築の牽引者としての地位を確立しました。日本館で重視された明快な平面構成、明快な構造、建築構成要素における自然美の尊重、建築と周囲の自然環境との調和といった数々の特徴は、本館に継承されています。加えて、本館の設計にあたっては、1939 年にル・コルビュジェが提唱した「無限成長の美術館構想」も参照されています。また、竣工後の 1955 年、国立

西洋美術館の設計のために来日したル・コルビュジエは本館を視察しており、1959年に完成し、国の重要文化財に指定されている国立西洋美術館へ影響を与えた可能性も指摘されます。このように本館は、ル・コルビュジエとの応答、展示空間を通じた近代性と伝統性の止揚といった坂倉準三の主題を色濃く反映したものであり、設計者の代表作として位置づけられます。

現在、世界的に知られ、活躍する日本人建築家が数多くいます。坂倉は丹下健三らと共に、その最初の世代に当たります。平明で軽快な形態の中に、素材に対する鋭敏な感覚、人工と自然との調和を織り込むといった既述の本館の特質は、日本の現代建築に通じ、その源流の一つとみなすことができます。現在、戦後に完成した建築としては、村野藤吾の設計作である世界平和記念聖堂（1954年竣工）や、丹下の広島平和記念資料館（1955年竣工）が国の重要文化財に指定されています。本館の竣工は1951年とこれらよりも早期です。同時期で現存する建築はすでに数少なく、戦後に世界に飛躍したわが国の建築の系譜を理解する上で、欠くことのできない文化財といえます。

ここまで述べてきましたように、神奈川県立近代美術館は(1)良好に維持されてきた古都・鎌倉の文化的景観であること、(2)戦後日本における近代性を通じた伝統の新たな表現であること、(3)建築家・坂倉準三の代表作であること、(4)日本現代建築の興隆の出発点を示すこと、といった特有の価値を有しています。

本会は1998年以降、日本における保存・再生を進めるべきモダニズム建築を順次選定しておりますが、神奈川県立近代美術館を最初の20選の一つとして選定し、本部や各国支部に知られております。このことも本館の極めて高い価値ゆえです。

貴下におかれましては、神奈川県立近代美術館の意義を十分に確認され、このかけがえのない文化遺産を後世に継承されますよう、格別のご配慮をお願い申し上げます。

本会はこの建築の保存・活用に関して、技術的支援など可能な限りのお手伝いをさせていただき準備を整えております。

敬具